

# Canforo

カンフォロ

愛媛県美術館ニュースNo.33 2007

No. **33**

Exhibition **企画展 1**

## M.C.エッシャー展

～視覚の魔術師～

**M.C. Escher Wizard of Vision**

平成19年7月14日[土] - 8月26日[日]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

●会場/新館1階[企画展示室]

だまし絵に代表される魅力的な作品を生み出した版画家、マウリッツ・コルネリス・エッシャー(1898-1972)は、美術を愛する人々のみならず、多くの支持を得ています。

オランダの土木技術者の子に生まれ、はじめ建築学を学んでいたエッシャーは、師の勧めによりグラフィック・アートに転向し、木版、リトグラフ、エッチングなどさまざまな版画の技術を習得しました。当初は身近なものを主題としていましたが、旅行で訪れたイタリアで、故郷オランダとは異なる起伏に富んだ風景に感銘を受け、ルネサンス期の風景版画を思い起こさせる作品を制作します。そこには、後のだまし絵にも通じる、版画の白黒を生かした緻密な表現が見られます。また、以後の方向性を決定付けることとなる幾何学的な文様に出会ったのも、旅先の地でのことでした。エッシャーは、スペインのアルハンブラ宮殿のモザイク文様をヒントに、正則分割による作品を生み出し、平面と三次元表現を巧みに組み合わせた作品や、だまし絵に結実させました。彼の作品において通奏低音ともいべき変容、循環、無限という抽象的概念は、豊富な数学的知識を背景として不思議な世界を作り出しています。

今回、長崎のハウステンボス美術館が所蔵する作品の中から約80点を紹介します。初期作品から、イタリア時代の風景版画、正則分割による独自の世界、そして無限への挑戦をみせる代表作まで、エッシャーの世界をお楽しみいただければ幸いです。

学芸員 西田 多江

著作権等の関係により  
図版を削除しております

《上昇と下降》1960年  
M.C. Escher works ©Escher Holding B.V.-Baarn-the Netherlands/Huis ten Bosch-Japan.

### 関連事業

- 学芸員によるフロアレクチャー  
7/20、27日(金) 14:00~15:00
- 美術講座「エッシャーの世界を見る」要申込  
7/28(土) 14:00~16:00
- 美術体験講座「たんけん!はっけん!エッシャー!!」要申込  
8/4(土)、5(日)、11(土)、12(日)、18(土)、19(日)  
9:40~17:00

お申し込み方法等、詳細は当館普及係までお問合せください。

M.C. Escher Wizard of Vision

# 新収蔵品展Ⅱ 田窪 恭治展

平成19年5月30日[水]ー10月21日[日]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。

● 会場/新館2階[常設展示室3]

平成18年度の新収蔵品を紹介する展示会をこの春から開催しています。「新収蔵品展Ⅰ」は3月14日(水)から5月27日(日)まで開催し、日本画家、岩波昭彦の作品16点を始め、智内兄助、他(寺田小太郎コレクション)から14点、井上和(洋画)、坂田虎一(洋画)、吉田勝彦(エングレーヴィング他)、大竹敦人(写真)の全49点を展示しました。



「新収蔵品展Ⅰ」会場風景

5月30日(水)からは愛媛県今治市出身の現代美術家、田窪恭治の作品17点を展示しています。金箔、廃材、蜜蝋、コンクリート。これらが一体となり、神々しい雰囲気と卑近な物質性が織り成す独自の宇宙空間を創りあげています。

田窪は現在、香川県金刀毘羅宮の文化顧問として、こんぴらさんの全体的な文化プロジェクトを推進しつつ作品を手がけています。その契機となったのは、1980年代終わりからフランス、ノルマンディー地方の小さな村にある、サン・ヴィゴール・ド・ミュー礼拝堂の再生プロジェクトを約10年という長い歳月をかけて完成させ、世界中から注目されたことでした。礼拝堂は、その内部壁面の作品から、「林檎の礼拝堂」と呼ばれ親しまれています。

今回新収蔵作品となった田窪作品は、1980年代初めの作品から、90年代後半の礼拝堂プロジェクトにいたるまで多岐にわたります。 学芸員 杉山 はるか

著作権等の関係により  
図版を削除しております

田窪恭治《化石 84-3》1984年

## INFORMATION

カラース オブ エヒメ

# 『COLOURS OF EHIME』をうご期待!

県民総合文化祭20周年記念事業の一環として、美術館では『COLOURS OF EHIME』を11月に開催します。これは、現在活躍中の3名の作家、井出創太郎(銅版画家)、MAYA MAXX(画家)、ミヤタケイコ(立体造形作家)を招き、愛媛の素材(和紙・タオル・伊予絨など)を使い、新たな作品制作を依頼、展示会を開催するという事業です。8月には、それぞれの作家が美術館を訪れ、制作を行います。公開制作の予定もあるので、作家が愛媛の素材から、どのような作品を創るのかを眺め、語らいに来ませんか。また、10月27日から12月24日まで、その作品を展示します。11月には、再度作家に来館してもらい、参加者と共作するワークショップも開催します。

愛媛の素材、タオル・和紙・伊予絨など、作品の素材になるものを美術館では集めています。古いものでもOKです。作品制作に使ってもいいよ!というものがあれば、美術館までご一報ください。

学芸員 田代 亜矢子



井出創太郎「渡部家住宅 その光と記憶」2006年



MAYA MAXX  
「キャンバスは風呂敷! MAYA MAXXと描こう!」  
ワークショップ 2007年



ミヤタケイコ「POP BABY」2004年

実技講座

# 緑を飾る

実技講座「緑を飾る」として、「緑を写す」と「なんちゃって軸装」の2講座を開催しました。2月の半ば、一見緑が少ない季節ですが、堀之内の緑を探してみました。大きな長い葉や、ギザギザした小さな葉など、様々な草木の緑を発見できました。講座では、それらを、じっくりと見比べ、カビネサイズの印画紙の上に並べ、光を当て陰影を写し取りました。暗室作業を取り入れ、光の当て方で陰影の濃さが変化し、イメージが変化するのを実感しました。思いもかけない緑の形を再確認する講座となりました。

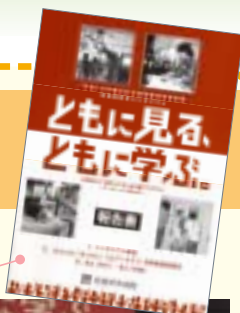
おひな祭りの日には、先に作った写真を飾る簡単な軸を作る予定でしたが、受講者に重なりが少なかったため、サイズの近い絵葉書を飾ることにしました。持ち寄りの布に接着しんを貼る「なんちゃって」な作り方ではありましたが、アクリル板で絵葉書を挟み飾り付けができる「軸」が独創的に完成しました。

学芸員 田代 亜矢子



博物館教育シンポジウム

## 「ともに見る、ともに学ぶ」



報告書出ました!!  
詳しくは美術館まで!

美術館では去る2月4日(日)に『ともに見る、ともに学ぶ』と題して、全国からお集まり頂いた100名の参加者のみなさんとともに「来館者」・「対話」・「学び」をキーワードに博物館教育 (Museum Education) についてのシンポジウムを開催しました。

第1部の基調講演では『作品から学ぶ、鑑賞者から学ぶ』と題して、京都造形芸術大学の福のり子氏よりミュージアムにおける「来館者」の重要性と「みる」という行為の本質を、続いて第2部では「みる」・「対話」・「学び」を共通テーマに千葉市動物公園(千葉市)の並木美砂子氏、日本科学未来館(東京都江東区)の井上徳之氏・長田純佳氏、林原自然科学博物館(岡山市)の井島真知氏、当館の鈴木より、各現場からの実践報告を行いました。館種は違っても、同じミュージアムとして「来館者」や「学び」について話し合う、とても盛況な会となりました。

学芸員 鈴木 有紀



## アトリエ通信

- 昨年4月に発足したアトリエ同好会も2年目を迎えました。昨年度は、ピンホールカメラの制作から撮影、写真現像までをみんなで試行錯誤を繰り返し、制作技法について理解を深めました。今年度は銅版画をテーマに、多様な技法をみんなで習得していきたいと考えています。はじめての方も大歓迎!興味のある方は、まずは、月に1度の集まりの日にアトリエをのぞいてください。

※活動日は、アトリエ内とホームページで告知しています。

- 創作スペースであるアトリエは個人の制作活動に場所を提供してきましたが、特殊な機材を要する版画、写真などについては、教室やグループでの活動にもアトリエの提供を始めました。利用方法については、普及係までお問い合わせください。



# 「愛媛の名工 ふれあい展Ⅲ 匠の技と心、未来へ」

平成19年9月7日[金] - 9月24日[月・祝]

休館日は、本紙ご利用案内でご確認ください。  
 ※9月7日は10時より開展式、11時より一般入場可。

●会場 / 新館1階 [企画展示室]

3年連続企画として開催してきました「愛媛の名工 ふれあい展」。最終回となる今回は、桜井漆器、おけ・たる、竹工芸品、西条だんじり彫刻、和傘、伊予簀、棕櫚細工、たかはりちようちん 桐下駄、高張提灯をご紹介します。

現在、職人の方々をお訪ねし、調査を進めています。職人さんのご家族や事業所が一丸となって製作されている場合もあれば、深刻な後継者不足に悩まれている方もありました。しかし、いずれにも共通するのは、作ることへの情熱と、素材の特性を最大限に生かした素晴らしい技術でした。本展では、精巧な完成作品とあわせて、製作工程についての資料もご紹介し、伝統を受け継ぐ名工たちの仕事をご覧いただけます。また、会期中は、だんじり模型を使つての組立、解体実演や、紙漉きにはかせない道具である簀の製作実演なども予定しています。本展が、愛媛の伝統工芸の魅力を再認識するとともに、未来へ伝えてゆく契機となれば幸いです。 学芸員 箱田 千穂



文庫(ぶんこ) (高濱弥生)



つのだる (鈴木末太郎)

関連講座

竹で金色模様の虫づくり

【竹を切る】8/29(水) 10:00~12:00

【虫を作る】8/30(木) 14:00~16:00

○小学生以上(各20名)

○材料費:100円程度

○講師:倉橋 澄夫(えひめ伝統工芸士)

※申込み等については、美術館普及係までお問い合わせください。

## 情報サービス ボランティアの 募集

美術館の総合案内や図書コーナーでは、館内のご案内や美術情報の提供、閲覧用書籍の管理などの来館者へのサービスを、ボランティアの方に活動いただいています。ただいま、一緒に活動いただける新しい仲間を募集していますので、興味のある方は美術館までお問い合わせください。

美術館では4月の人事異動で、4名の新しいスタッフを迎えました。美術館で働くことへの思いをそれぞれにうかがってみました。

### 美術館日記

●北岡 徹 普及係長

みなさまから愛されている愛媛県美術館。中庭には、大きな楠が3本、木陰をつくっています。大樹の生命力にひかれるのか、ベンチに座り、ゆっくりと流れる時に、多くの方が癒されています。あなたのお越しを心待ちにしています。

●一色 政信 総務課長

美術館勤務となり、文化的な環境の職場で生き生きとしております。何かと、厳しい社会情勢の中で、心休まるひと時を、皆様方に味わっていただける身近な美術館づくりをめざして、微力ながらがんばってまいりたいと思っております。



●和田 典夫 館長

仕事柄館内展示を見て回る機会がありますが、そのたびににがしかな新しい発見があり、落ち着いた雰囲気のおかげで、心も休まります。このような楽しみを一人でも多くの方に味わっていただきたい。美術館へお越しください。

●西久保 公子 主任

美術館って、見るのはもちろん作ったり守ったり関わって広がりやと色々な表情があることを知りました。毎日へエ!の驚きとワクワクの連続です。そんな楽しさを伝えられるよう縁の下の力持ちとして頑張ります。(^^)J

ご利用案内 ■ 開館時間:9:40~18:30(入室は18:00まで) ■ 休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日及び振替休日に当たる場合、毎月第1月曜日は開館、翌火曜日が休館。)

アトリエ 利用時間9:40~18:30

創作活動のできるスペース、アトリエはどなたでも自由にご利用いただけます。お申し込みは、お電話か、直接来館して予約してください。

- 利用内容:版画・木工・染織・写真・粘土など
- お問い合わせ先:ふれあいアートセンター tel.089-932-0147

講堂・研修室・県民ギャラリー

講演会、研修、作品発表の会場として講堂(定員120名)、研修室(定員56名)、県民ギャラリー(12室)がご利用いただけます。料金等、詳細については、当美術館総務課まで、お問い合わせください。

ハトの声(編集後記)



新緑の季節、美術館の前庭で昼休みの時間帯に、愛媛県警察音楽隊のコンサートが開かれました。青空の下の開放的なスペースでの演奏には、また室内とは違ったよさがあり、大勢の方が昼のひととき、演奏を楽しまれました。次回は、10月。音に誘われて来てみませんか。(M.I.)

■ 4月より開館時間が延長し、18:30まで開館しています。※南館ギャラリーの開館は、18:00までです。

■ 休館日のお知らせ ..... ● = 休館日

6							7							8							9						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
.	.	.	.	.	1	2	1	2	3	4	5	6	7	.	.	.	1	2	3	4	.	.	.	.	.	1	
3	4	5	6	7	8	9	8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11	2	3	4	5	6	7	8
10	11	12	13	14	15	16	15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18	9	10	11	12	13	14	15
17	18	19	20	21	22	23	22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25	16	17	18	19	20	21	22
24	25	26	27	28	29	30	29	30	31	.	.	.	.	26	27	28	29	30	31	.	23 <sub>30</sub>	24	25	26	27	28	29